

ミニ展示「江戸時代後期の行動文化とその周辺」展示資料説明

1. お花見に行く

すだづみはなざかり

①「隅田堤花盛」

『絵本江戸土産 初篇』

うたがわひろしげ

歌川広重(1797-1858)筆

しょうていきんすい

松亭金水(1797-1863)[説明]

[江戸] 金幸堂(菊屋幸三郎)発行

[嘉永3(1850)]刊行

請求記号: 国 8-144-1

本文に享保の頃(1716~1736)吉野の桜を植えたこと記述がある。

堤が築かれたのは室町時代後期(1500年代中頃)。

江戸幕府第8代将軍徳川吉宗(1684-1751)が護岸強化と、庶民の憩いの場を設けるために、堤と桜並木を整備した。こうして、隅田堤は、花見の名所の一つとなった。

【江戸時代の治水技術について】

治水とは、河川の氾濫を防いだり、水上における運送や農作物に必要な水を供給できるように、河川の改良や保全を行うこと。江戸時代の治水技術は、①堤防を築く、②護岸を築く、③水制(土砂、水の流れを遮断し水の流れを制御する)、これらを組み合わせて行われた。

②「腹籠之図」「立籠之図」「隄防橋梁組立之図」

[著者不明]

[製作時期不明(江戸時代)]

請求記号: 国 14-115

写本(手書き)。護岸の築き方を描いている。腹籠、立籠は竹材で編んだ籠の中に砕いた石を詰め込んだもの。

③「朋木牛之事」『御普請積方法』

[著者不明]

[製作時期不明(江戸時代)]

請求記号: 国 14-117

写本(手書き)。絵は、竹や木材の枠組の中に石を詰めた「牛枠」を川の中に設置し、水の流れを制御する様子を描いたもの。

2. 流行の柄を身につける

④「当時三美人 冨本豊ひな 難波屋きた 高しまひさ」

『続編浮世絵版画集成』

きたがわうたまる

喜多川歌麿(1753?-1806)画

彫彩工房発行 [昭和時代刊行]

請求記号: 錦 278

寛政5(1793)年頃葛屋版の複製。小紋は諸大名が着用した袴の柄が始まりとされ、江戸中期以降町人や女性の着物の柄として流行した。

【小紋とは】

模様を彫った型紙と、防染剤(模様が染まらないように粘土、糊、蠟等を布面に塗る)を用いて模様染めをする型染めの一つ。

⑤『小紋見本帖』

[製作者不明]

[京 八文字屋卯兵衛] [江戸時代刊行]

請求記号: 国 15-407

染物屋で使われた小紋柄の布が貼付された見本帖。

はいかいかしよくにんがさんあわせ

⑥「鍵成作俳諧」『俳諧歌職人画讃合』

まんぞう もりしまちゅうりょう

森羅亭万象(森島中良)(1756-1810)編

水竹亭千春(生没年未詳)画

江戸 西宮弥兵衛発行 文化13(1816)刊行

請求記号: 国 5-2481-1

しよくにんづくしはいかいうたあわせ

題簽の書名は『職人尽俳諧歌合』。

職人が型染めをする様子が描かれている。また、鍵成作の俳諧

「夏衣 わもん才ある 形付も しかじ ねす地の 孔子嶋には」は、布に模様を付けていく技はさすがであるが、職人は小紋柄ではなく

こうしじまがら

孔子嶋柄の着物を着ている、つまり自身の着物には無頓着という意味であろう。

⑦『小紋裁』

さんとうきょうでん きたおまさのぶ

山東京伝(北尾政演)(1761-1816)著・画

[版元不明] 天明4(1784)序刊行

請求記号: 国 5-138

山東京伝が考案した小紋柄の図柄をまとめたもの。

3. 神社、寺院にお参りする

⑧「熱田瀉の風景」『伊勢神宮御影詣図会』

えんこうあん こうりきえんこうあん

猿猴庵翁(高力猿猴庵)(1756-1831)画作

文政13(1830)製作

請求記号: 竹 2-15

写本(手書き)の原稿。御影詣(お蔭参り)とは、江戸時代にみられた伊勢神宮へ民衆が大勢で参詣する現象のこと。この現象は寛永15(1638)年に始まり、慶応3(1867)年まで15回確認されている。おおよそ60年に一度の周期で発生した。本書は、文政13(1830)年のお蔭参りの道中の様子や、5月5日に、歌舞伎役者市川白蔵等が伊勢神宮に参拝した時のにぎわい、土産物等について絵入りで紹介したもの。

⑨『信濃国善光寺畧絵図』

けいさいえいせん

溪斎英泉(1791-1848)画

[江戸] 葛屋伴五郎発行 [江戸時代後期刊行]

請求記号: 国 3-261

現在の長野県にある善光寺の境内図。

絵の右側上部に弘化4(1847)年5月8日に発生した善光寺地震で亡くなった人々の供養塚「横死人つか」が描かれている。すでに

観光地であった善光寺には、江戸をはじめ各地から訪れた人々も多く、亡くなった人々の中には観光客も多かった。

【神社、寺院へお参りするための案内書】

神社、寺院は、それぞれの神社、寺院の歴史や特色をまとめた「略縁起」、「宝物録」等の摺物、冊子等の案内書を作成し頒布して、参詣者を増やす働きかけをした。また、人気のある神社、寺院の番付表も版元から出版された。

たいにつほんしんしゃふつかくさんけいすうもう

⑩『新板大日本神社仏閣参詣数望』

[著者不明]

京 近伝発行 [江戸時代刊行]

請求記号: 国 3-152

神社、寺院の参詣者数の多い順に、相撲の番付表のように表した見立番付。

⑪『善光寺縁起』

はやまのいんし さかうちなおより

葉山之隠士(坂内直頼)(1644?-1711?) [撰]

駿河屋国平[ほか]発行 安政 6(1860).9 再刻刊行

(初版:元禄 5(1692).10)

請求記号: 国 3-255

題簽書名は『善光寺如来縁起』。善光寺の起源や由来を伝える物語。全 5 冊。

⑫『三井寺鐘由来』

[著者不明]

[] 矢守発行 [江戸時代刊行]

請求記号: 国 3-241

おんじょうじ

三井寺は、滋賀県大津市にある園城寺の通称。

三井寺の鐘は、承平年間(931-938)に田原藤太秀郷が三上山のムカデ退治のお礼に琵琶湖の龍神より頂いた鐘を三井寺に寄進したとされる。その後、比叡山延暦寺と三井寺との対立が続いていた時に、弁慶が三井寺から鐘を奪い、比叡山に引きずり上げたが、鐘が「いのう」(帰りたいの意味)と響いた。怒った弁慶は鐘を谷底へ投げ捨てたが、やがて三井寺に返された。

⑬『石山寺由来略縁起』

[著者不明]

[版元不明] [江戸時代刊行]

請求記号: 国 3-243

滋賀県大津市にある石山寺の創建と本尊の観世音菩薩の靈驗あらたかな功德の数々を記したもの。また、NHK 大河ドラマ「光る君へ」の主人公紫式部が「源氏物語」の構想を練ったゆかりの寺であることについても触れている。

4. 人気の書物を読む

⑭『東海道中膝栗毛』

十返舎一九(1765-1831)著

喜多川式磨(生没年未詳), 十返舎一九(1765-1831)画

[版元不明] 享和 2(1802)序-[文化 11(1814)]序刊行

請求記号: 国 16-139

巻頭書名は『浮世道中膝栗毛』。全 18 冊。

12 年かけて刊行された滑稽本。「膝栗毛」とは、自分の膝を馬の代

とちめんややじろうべえ

わりに使うことから、徒歩で旅をすることの意味。枋面屋弥次郎兵衛

きたはち

と、居候の喜多八が厄落としにお伊勢参りに行く話。東海道の旅の実状が書かれている。

⑮『南総里見八犬伝』

曲亭馬琴(1767-1848)著

柳川重信(1787-1833), 柳川重信(2代目)(生没年未詳), 溪斎英泉(1791-1848)画

江戸 丁子屋平兵衛[ほか]発行

文化 11(1814)-天保 13(1842)刊行

請求記号: 国 5-98

全 98 巻 106 冊。28 年かけて刊行された長編伝奇小説。安房里

ふせひめ

やつふさ

見家の姫、伏姫と里見家で育てられた神犬八房の因縁によって結ばれた八人の若者(八犬士)が主人公。八犬士は、それぞれ忠義、仁義、礼節、智謀、勇気、信義、誠実、名声の八つの徳を象徴する犬の紋章を持ち、様々な困難を乗り越え、里見家に仕え、関東大戦では北条軍を破り、里見家を勝利に導き、最後は、伏姫と八房の魂が

あんざいかげつら

合体した犬神の助けを得て、悪の化身である安西景連を倒す。

【書物の製作について】

じほん

寛文期(1661 - 1673)に江戸で始まった地本問屋が、企画、制作して販売した大衆向けの娯楽本や錦絵が庶民の人気を博した。また、本を購入しなくても、見料を支払えば本を読むことができる貸本屋の存在(幕末には約 800 件(『江戸繁昌記 三篇』))が読書普及に貢献した。

にしきゑ

⑯「錦絵」(パネル)『江戸名所図会 巻一』

齋藤幸雄(長秋)(1737-1799)著

齋藤幸孝(莞斎)(1772-1818), 齋藤幸成(月岑)(1804-1878)校

長谷川雪旦(1778-1843)画

江戸 須原屋茂兵衛[ほか]発行 天保 5(1834)刊行

請求記号: 国 8-99-1

地本問屋鶴屋喜右衛門の店の様子が描かれた挿絵。鶴屋喜右衛門は、菱川師宣(1618?-1694)画『江戸雀』(江戸で初めて刊行された江戸地誌)(延宝 5(1677)年)、歌川広重(1797-1858)画『東海道五拾三次之内』の内「日本橋」、「品川」、「川崎」等(天保 4(1833)年)等を刊行。

⑰「絵本名物錦画耕作 新板くばり出来秋の図」

(喜多川歌磨筆)『地本錦絵問屋譜』

石井研堂(1865-1943), 広瀬菊雄(1878-1946)著

東京 伊勢辰商店発行 大正 9(1920).8 刊行

請求記号: 国 1-15

地本問屋の様子が描かれた錦絵。